近況

表現の概念変えたい

写真家　甲野 善一郎さん(43)＝熊本市

いてついた冬場の湖を描いた風景画だと思って近づくと、筆の跡が見えない。「写真なんですよ」と言われ、驚いた。

フィンランドで撮った湖の写真を、厚さ数センチの白い紙粘土の板に、インキを吹き付ける印刷機でプリントした作品。紙粘土の表面にはあらかじめ、ナイフや指で、線や凹凸を作り、凍った湖面の質感を表したという。その作品の評価で、美術団体・モダンアート協会の准会員に推挙された。

熊本市出身。熊本工大（現崇城大）付属の専門学校で写真を学び、写真家の百瀬俊哉氏に指導を受けた。

「リアルな情報を記録して表現するのは写真しかない」。30歳以下を対象にしたニコンの第１回写真公募展で、最優秀賞の「三木淳賞」を24歳で受賞。現在は崇城大芸術学部デザイン学科の准教授を務める。

紙以外に写真を印刷するようになったのは３年前。「どう頑張っても作品は平面のまま。リアリティーが出ず悔しかった」。大学で日ごろ接する日本画や彫刻、洋画の材料や制作方法を採り入れ、表現に幅が広がった。コンクリートや木板にも印刷する。

３Ｄプリンターを使い、触れても鑑賞できる写真作品を制作中。「写真表現の概念を変えていきたい」　（中原功一朗）

※県立美術館分館で13日まで開催中の「モダンアート展・熊本」で、湖の１枚を展示中。

風景画と見間違う写真作品を手がける甲野善一郎さん

2018年5月11日　熊本日日新聞　P.13